

機構長裁量経費の活用成果(令和4年度)

ー 人間文化研究創発センターへの資源配分ー

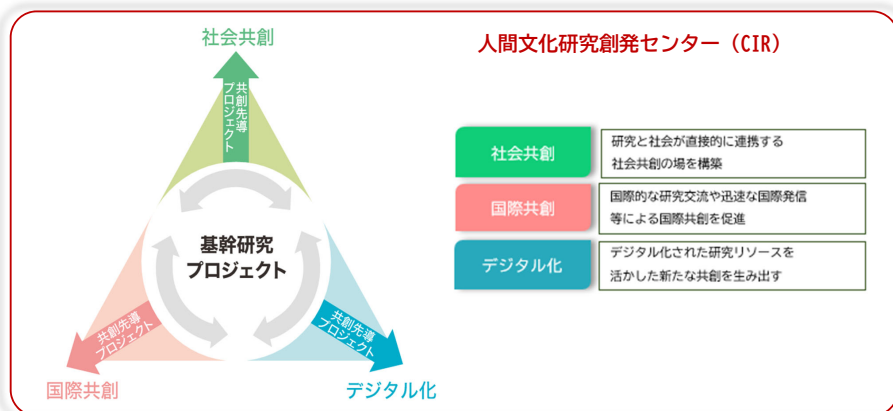
令和4年度機構長裁量経費の配分(執行)方針

人間文化研究機構においては、教育研究の活性化、機構の強み・特色となる分野の醸成、機構長を支援する体制の強化など、業務運営の改善を図ることを目的として、機構長裁量経費の予算を確保し、重点的かつ効果的な資源配分を実施しています。

令和4年度においては、機構長のリーダーシップに基づく機能強化等を図り、第4期中期計画を達成するため、以下①～⑤の取り組みに機構長裁量経費を配分することとしました。

- ① 人間とその文化を総合的に探究し、社会との共創を推進する取組
- ② 専門分野を超えた学際的研究の取組
- ③ 国際的ネットワークの形成とそれを基盤とした共同研究を推進する取組
- ④ デジタル・ヒューマニティーズ推進に資する取組
- ⑤ 経営マネジメントの改善に特に資する取組

当機構では、第3期に設置した総合人間文化研究推進センターと総合情報発信センターそれぞれが担ってきた研究と情報発信の機能を統合して、令和4年4月1日に「人間文化研究創発センター」(以下、「創発センター」)を設置しました。創発センターでは、研究と社会が直接連携する仕組みを強化し、研究成果の共有と活用を一層促進することに加え、多様な人びととの社会共創の理念に基づく研究プロジェクト(基幹研究プロジェクト及び共創先導プロジェクト「共創促進研究」)を推進します。また、研究と情報関係事業や国際連携事業とを一体的に運営する体制のもとで、研究リソースのデジタル化やデジタル・ヒューマニティーズの環境整備等の促進、研究成果の国内・国際発信等を目的とした各事業(共創先導プロジェクト「共創促進事業」)を推進します。



創発センターの実施する事業は、研究と社会の連携強化、国際関係事業の一元的運営、研究リソースの効果的なデジタル化による共有・発信を可能とし、多様性のある社会や世界に開かれた人間文化研究を実現しようとするものです。これらの取組は、機構長裁量経費の趣旨とも合致することから、令和4年度は、創発センターに対して合計137,000千円を配分することを決定しました。

令和4年度機構長裁量経費の活用成果①(創発センター：基幹研究プロジェクト)

配分先：人間文化研究創発センター(基幹研究プロジェクト)

配分額：42,000千円



広領域連携型基幹研究プロジェクト

創発センターが推進する基幹研究プロジェクトのうち、「広領域連携型基幹研究プロジェクト」は、機構内の機関が中核となり、機構内の他機関や機構外の大学等研究機関とも連携しつつ、異分野の連携を必要とする研究テーマを掲げて実施するプロジェクトです。

人文学、情報科学、保存科学、環境学等といった多様な分野の国内外の研究機関や研究者並びに地域社会等と連携し、専門分野の枠を超えた学際的な研究に取り組んでおり、特色ある3つのプロジェクト(「横断的・融合的地域文化研究の領域展開：新たな社会の創発を目指して」、「人新世

に至る、モノを通した自然と人間の相互作用に関する研究」、「異分野融合による総合書物学の拡張的研究」)を推進しています。

研究初年度にあたる令和4年度は、各プロジェクトにおいてキックオフイベントを開催するとともに、多彩な活動を実施しました。特に、地球研を主導機関とする「人新世に至る、モノを通した自然と人間の相互作用に関する研究」では、機構長裁量経費を活用しながら、以下のような成果を上げました。

▷ 人新世に至る、モノを通した自然と人間の相互作用に関する研究(主導機関：地球研) ……………

事業のねらい

自然の中を生きる人類は、環境中の多岐にわたる資源を利用して生活してきました。本研究は、身体や物質に含まれる元素の濃度及び同位体比を分析することで、自然と人間の関わりについて時間軸と空間軸を横断する研究を行い、物質文化から見た現代の地球環境問題につながる人間の資源利用形態の変容を明らかにすることを目標としています。国立民族学博物館との共同研究「古代アンデス研究」を行うほか、機構内外の大学等研究機関との共同研究を行います。



>>[活用成果]

■ 「人・モノ・自然プロジェクト」キックオフシンポジウム(令和4年12月)を、第12回同位体環境学シンポジウム(同月開催)と連携し、オンラインとオンサイトを同時に行うハイブリッドで開催しました。

■ 歴博ユニットでは、日本産樹木年輪の年輪計測と酸素同位体比分析、単年輪の炭素14年代測定を継続しました。特に岐阜県瑞浪市大湫神社スギ倒木について、1876年から倒壊した2020年までのデータを獲得し、20世紀前後の詳細な挙動を明らかにしました。



▲「人・モノ・自然プロジェクト」キックオフシンポジウム



▲遺跡発掘調査報告書放射性炭素年代測定データベース

- データベースれきは「遺跡発掘調査報告書放射性炭素年代測定データベース」について、科研費と連動しながら英語化に向けた整備を開始しました。さらに、炭素・窒素分析の結果を反映させるため、レコードの再整備に着手しました。
⇒<https://www.rekihaku.ac.jp/up/cgi/login.pl?p=param/esrd/db.param>

令和4年度機構長裁量経費の活用成果②（創発センター：共創先導プロジェクト）

配分先：人間文化研究創発センター（共創先導プロジェクト）

配分額：95,000千円

共創先導プロジェクト「共創促進研究」

「共創先導プロジェクト」は、各機関及び国内外の大学等研究機関が連携して、研究資源や研究成果の共有化及び地域との共創・協働等を通して社会に貢献するプロジェクトです。これらを通して、「社会共創」「デジタル化」「国際共創」という3つの研究展開を図ります。

これら3つの研究展開に対応して、機構内外の多様な組織や人々との共創により、以下の「共創促進研究」を推進します。令和4年度は、このうち「コミュニケーション共生科学の創成」、「学術知デジタルライブラリの構築」に対して特に、機構長裁量経費を配分しました。

＜共創促進研究＞

テーマ	研究課題名	主導機関
社会共創	コミュニケーション共生科学の創成	民博・国語研
デジタル化	学術知デジタルライブラリの構築	民博・国語研
国際共創	日本関連在外資料調査研究	歴博・国文研・国語研

◇ コミュニケーション共生科学の創成（主導機関：民博・国語研）

事業のねらい



本研究では、国立民族学博物館と国立国語研究所が主たる拠点となり、あらゆる特性をもつ人が同等に参加できる「コミュニケーション共生」のための新しい研究分野を確立することを目指します。「コミュニケーション弱者」「障害者」と呼ばれる人たちが、他の人々と同等に社会活動に参加できるようになるためには、現状のメカニズムを解明し、それぞれのニーズの違いとバランスをとるための基礎研究を進める必要があります。このような研究を進め、それをインフラ整備というハード面と一般社会の認識というソフト面の変化につなげていきます。

>>[活用成果]

- 本研究では、参画機関の分野・特性を活かし、各班に分かれてコミュニケーション共生に関するそれぞれのアプローチを実践しています。令和4年度は、以下の取組を行いました。
 - ・「視覚コミュニケーション班」…日本手話の談話映像を収録し分析と公開のための整備を進めました。
 - ・「非視覚コミュニケーション班」…ユニバーサル・ミュージアム岡山巡回展の開催準備を進めました。

また、キックオフ研究会(令和4年11月、静岡・ヴァンジ彫刻庭園美術館)を開催するとともに、言語管理研究会とのネットワーキングを進めました。

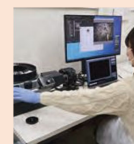
- ・「脳とコミュニケーション班」…手話失語に関する評価基準策定のための準備を進めました。また、特別展で研究概要ポスターを展示しました。
- ・「個人の特性とコミュニケーション班」…外国人、障害者、高齢者を取り巻く様々なコミュニケーションの問題に関して、調査・研究を進めました。

- 民博特別展示「Homō loquēns「しゃべるヒト」ことばの不思議を科学する」と関連事業を開催(令和4年9月－11月)するとともに、第14回国際手話言語学会を開催しました(令和4年9月－10月)。

◇ 学術知デジタルライブラリの構築（主導機関：民博・国語研）

事業のねらい

本研究では、日本国内の研究者・研究機関が現地調査を通して蓄積してきた写真・動画・音声資料等の資料を保存し有効に利用するため、人文機構の国立民族学博物館・国立国語研究所と国立情報学研究所が共同して、デジタル技術を活用しながら資料のアクセス性を高めていきます。さまざまな分野における過去の現地調査成果を現代において見直す作業を通して、学術の進展を加速させます。



>>[活用成果]

- 民博拠点において、研究集会「写真データベースの活用法としてのデジタルストーリーテリング——福井勝義「北東アフリカ：1967-2006 写真による瞬間の記録」を例として」(令和5年2月)やシンポジウム「写真家 井上隆雄の視座を継ぐ——仏教壁画デジタルライブラリと芸術実践」(令和5年3月)を開催しました。

また、市川光雄「熱帯アフリカの森と人」写真コレクションの追加公開を行い、インターネットで公開しました。⇒<https://diplas.minpaku.ac.jp/collection/mdl201604/>

- 国語研拠点において、研究集会「学術知デジタルライブラリの構築(国語研拠点)」(令和5年3月)を開催しました。

また、『鳩間方言辞典』の著者である加治工真市氏自身による辞書中の例文読み上げ音声を使用した、「鳩間方言音声例文データベース」を公開しました(令和4年10月)。

⇒<https://doi.org/10.15084/00003659>

▼第14回国際手話言語学会



▲「写真家 井上隆雄の視座を継ぐ——仏教壁画デジタルライブラリと芸術実践」

共創先導プロジェクト 共創促進事業「知の循環促進事業」

「共創促進事業」は、共創先導プロジェクトにおける3つの研究展開を加速化させるための事業を実施し、機構内機関及び機構外大学等研究機関の研究の高度化・創発を図ります。

このうち「知の循環促進事業」は、「開かれた人間文化研究を目指した社会共創コミュニケーションの構築」事業等の

推進を通じて、機構の各機関と大学等研究機関が連携しつつ、博物館及び展示を活用して人間文化に関する最先端研究を可視化し、学界並びに社会との共創により研究を高度化する研究推進モデルを構築します。また、人文機構シンポジウム等の広報事業等と合わせて、社会共創を推進します。

<共創促進事業>

テーマ	事業名	事業内容
社会共創	知の循環促進事業	社共コミュ事業、人文知コミュニケーター、人文機構シンポジウム 他
デジタル化	デジタル・ヒューマニティーズ促進事業	デジタル・ヒューマニティーズ(DH)の推進、nihuBridge
国際共創	国際連携促進事業	国際連携協定の締結、若手研究者海外派遣プログラム 他

▷ 開かれた人間文化研究を目指した社会共創コミュニケーションの構築(本部・6 機関)

事業のねらい



各機関が所有する資料・データ等を、デジタル技術を用いて整備し、博物館や様々な展示を活用して可視化するとともに、研究のプロセスや成果を多様な方法や多様な場で共有・公開することにより、本機構と大学等研究機関と社会との間に「知の循環」を生み出し、国内外の様々な人々との共創による開かれた人間文化研究推進モデルの構築を目指します。また、視覚的あるいは聴覚的困難等のコミュニケーション課題を解決するための共同研究を実施し、その成果に基づき、多様性を踏まえた展示手法を開発します。

>>[活用成果]

■ 博物館機能検討委員会を設置し、当事業で実施する展示に係る満足度や理解度等の調査について検討する体制を整備し、実施方法についての検討を開始しました。また、国文研創立 50 周年記念特別展示「こくぶんけん(推し)の一冊」など、社共コミュ事業に係る展示を、機構全体で計 24 件開催しました。

■ 民博においては、体験型観覧ガイドシステム導入に向けて、「日本の文化」展示場において、モビリティ(自動走行型電動車椅子)による自動走行実証実験を実施しました。



▲国文研創立 50 周年記念特別展示「こくぶんけん(推し)の一冊」



▲モビリティ(自動走行型電動車椅子)による自動走行実証実験

S 機構長裁量経費を配分した事業(令和4年度)

創発センターに対する配分を含め、令和4年度は、14の事業を機構長が選定し、機構長裁量経費を配分しました。

活用成果の一部は、「人文機構の財務レポート 2023」で公開しています。

⇒ <https://www.nihu.jp/ja/opendoor/h-zaimu.html>

機構長裁量経費活用事業(令和4年度)

機関名	事項名	配分額
人間文化研究創発センター	社会との共創により新たな課題解決に導く「人間文化研究創発センター」の設置	116,000 千円
〃	共創促進研究プロジェクト ※国立国立民族学博物館への配分(コミュニケーション共生科学の創成・学術知デジタルライブラリの構築)	21,000 千円
機構本部	機構の情報セキュリティ強化推進	15,000 千円
〃	人間文化研究機構が一体となって取り組む各種評価対応	8,000 千円
〃	新分野創成・異分野連携の推進	6,000 千円
国立歴史民俗博物館	マルチアイソトープ分析による食性・原料産地などの解析	86,000 千円
国文学研究資料館	古典籍データ駆動研究センター基盤整備	21,000 千円
〃	地域文化拠点所蔵資料の集中的整備に基づく基盤の拡充と地域ネットワークの構築	16,000 千円
〃	日本文学を中心とする研究資源利活用的高度化による学術研究基盤の構築	6,000 千円
国立国語研究所	言語資源の高度化・発信力強化による言語資源学の創成	43,500 千円
国際日本文化研究センター	「国際日本研究」コンソーシアムにおけるグローバルな新展開ー「国際日本研究」の先導と開拓ー	52,500 千円
総合地球環境学研究所	国際ネットワークの拡充による人間文化研究のシーズ発掘・橋渡し事業	37,500 千円
国立民族学博物館	持続可能な人類共生社会を目指すユニバーサル型メディア展示の構築	71,000 千円
〃	フォーラム型人類文化アーカイブズにもとづく持続発展型人文科学研究の推進	10,500 千円